

16. 高知女子大学看護学会

高知女子大学看護学会は、看護学の進歩発展と、地域の看護職者の研鑽および看護の質向上に貢献することを目的として、看護学会の開催、公開講座の開催、高知女子大学看護学会誌の発行、奨学金の貸与などの活動を行っている。本学会の運営委員の約半数は、本学部の教員が引き受けており、学外のような現場で活躍している運営委員とともに活動に取り組んでいる。また、運営委員以外の学部の教員からも多くの協力を得て、これらの諸活動をスムーズに展開することができている。

1) 第 49 回高知女子大学看護学会の開催

昨年度に引き続き『看護におけるイノベーションの創出』をメインテーマとして、第 49 回高知女子大学看護学会を令和 5 年 7 月 22 日（土）に開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ 3 年は中止やオンライン開催となっていたが、今年度は高知県立大学池キャンパスの会場での対面とオンラインのハイブリッドで行った。卒業生・修了生をはじめとする県内外の施設の看護職者や学生など、会場に 94 名、オンラインで 31 名、計 125 名の参加があり、活気あふれる学会となった。

午前は、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 教授の福井小紀子先生を講師にお迎えし、「社会のニーズに応える看護イノベーションの挑戦」と題してご講演いただいた。開催後のアンケートでは、「DX の技術を看護にどのように融合していくかについて、考え方や捉え方を聞くことができてよかった。」「看護が目指すところと国の政策との関連、今後を見据えた研究に関しての知識が得られた。」といった意見があり、社会の動向を踏まえて取り組んでいる最新の研究の実際をご紹介いただいたことで、新たな知見を得る機会となっていた。また、「社会の変化に対する看護の道をどう切り開いていくかを考える機会やアイデアをいただき、新たな看護研究に携わってみたいと思った。」「今の看護だけでなく、未来を見据えてイノベーションしていくことが必要であることを学べた。」などの意見があり、参加者にとって今後のケア向上や看護研究に取り組むモチベーションにつながったことがうかがえた。

午後は、様々な場での看護のイノベーションを取り上げた 6 つのワークショップを開催し、実践経験に基づく話題提供と意見交換が行われた。また、終了後には全体で集合し、各ワークショップの様子を報告し合い、共有した。

□ワークショップ 1 社会的課題への看護職の挑戦 ―ヤングケアラーの支援―

話題提供者：岩井 由里（高知県立幡多農業高等学校 養護教諭）

西内 章（高知県立大学社会福祉学部 教授）

森下 幸子（高知県立大学看護学部 准教授）

コーディネーター：森下 幸子（高知県立大学看護学部 准教授／ヤングケアラープロジェクト チームリーダー）

□ワークショップ 2 変化する医療現場で専門性を発揮する看護職の挑戦

話題提供者：宮脇 聡子（四国がんセンター がん看護専門看護師）

大麻 康之（高知医療センター 救急外来・中央診療 看護副科長）

コーディネーター：豊田 邦江（高知県立大学看護学部 特任講師）

□ワークショップ 3 越境する研究者が切り開く新たな看護研究方法の可能性

話題提供者：小林 秀行（高知県立大学看護学部 准教授）

岩本 幸大（京都大学大学院 情報学研究科社会情報学コース医療情報学講座 博士後期課程）

コーディネーター：畦地 博子（高知県立大学看護学部 教授）

□ワークショップ4 ソリューション導入で実現する学習者主体の看護教育

話題提供者：大川 宣容（高知県立大学看護学部 教授）

嶋岡 暢希（高知県立大学看護学部 准教授）

コーディネーター：長戸 和子（高知県立大学看護学部 教授）

森本 紗磨美（高知県立大学看護学部 助教）

□ワークショップ5 “あったらいいな” から始まる療養生活を支えるケアツール開発

話題提供者：山本 典子（株式会社メディディア医療デザイン研究所 代表取締役）

中井 寿雄（高知県立大学看護学部 准教授）

コーディネーター：瓜生 浩子（高知県立大学看護学部 教授）

□ワークショップ6 キャリア形成における自分イノベーション

話題提供者：坂口 結映（高知県立大学大学院 看護学研究科 博士前期課程）

中村 夏子（高知大学医学部附属病院 次世代医療創造センター）

竹崎 陽子（高知医療センター）

松澤 大二郎（高知市保健所 健康増進課）

コーディネーター：田井 雅子（高知県立大学看護学部 教授）

2) 高知女子大学看護学会誌の発行について

学会誌を2巻発行した。詳細は以下の通りである。

- ・高知女子大学看護学会誌 第48巻2号：令和5年6月発行

原著論文5編、資料2編

令和4年度高知女子大学看護学会公開講座報告

- ・高知女子大学看護学会誌 第49巻1号：令和5年12月発行

原著論文3編、総説3編、研究報告1編、資料2編

第49回高知女子大学看護学会報告、令和5年度高知女子大学看護学会総会報告

3) 令和5年度 高知女子大学看護学会「公開講座」について

研究方法についてシリーズ化した公開講座の開始から10年を迎え、令和5年度はテーマと内容の見直しを行った。引き続き看護研究に焦点を当てつつ、テーマを「現場でいかせる！看護研究」へ変更し、新たに「研究計画の立案」と「事例研究」を盛り込むなど、刷新を図った。詳細は下記のとおりである。

実施後のアンケートでは、いずれの回も回答者の9割以上が「満足できた」または「やや満足できた」と回答し、感想からは、自分が現在取り組んでいる研究の計画や分析を見直したり、これから取り組む研究のテーマ探し、研究に取り組むモチベーションにつながったことがうかがえた。一方で、「量的データの収集と分析結果の読み方」「質的データの収集と分析方法」については、従来2回ずつで行っていた量的研究と質的研究を1回ずつに凝縮したため、理解が難しかった、もう少し詳しく聞きたかったといった感想があった。また、今年度は対面開催としたが、オンライン開催を希望する声もあった。参加者のニーズを踏まえ、次年度はさらに内容の充実を図っていきたい。

表 1 令和 5 年度 公開講座

	タイトル	講師	日程
第 1 回	現場でいかせる！看護研究 研究計画の立案	瓜生 浩子 先生	8 月 20 日（日） 9：30～12：30
第 2 回	現場でいかせる！看護研究 量的データの収集と分析結果の読み方	岩崎 順子 先生	13：30～16：30
第 3 回	現場でいかせる！看護研究 質的データの収集と分析方法	高谷 恭子 先生	9 月 16 日（土） 9：30～12：30
第 4 回	現場でいかせる！看護研究 事例研究	田井 雅子 先生	13：30～16：30

4) 奨学金の貸与

令和 5 年度は高知女子大学看護学会奨学生に 2 名の応募があり、いずれも貸与が承認された。

奨学金貸与事業は、例年応募者が 1～2 名程度で運用率が 22%程度にとどまっていることから、活性化のための対策として、①奨学金返還期間を貸与月数×1.5 から貸与月数×2.5 以内に延長する、②財源充実のため一般会計と学会事業準備金（基金）から計 400 万円を奨学金貸与事業費に補填することとなった。

引き続き、奨学金について広く学会員に周知を図り、活用率の向上に努めていきたい。